



■ 学園の教育目標

ひとりだち

挑戦

創造

貢献

■ 学びの系統（達成目標） *根拠：小学校、中学校学習指導要領解説「国語編」、教育課程企画特別部会論点整理

学年	1・2年生	3・4年生	5・6年生	7年生	8年生	9年生
各ブロックの考え方	低ブロック【基礎形成期】 遊びの中での学びから自覚的な学びへ →具体物を用いた思考 →反復による基礎・基本の徹底 (中学年からつまり増加) →学習規律、学習習慣の定着 本校の特色ある活動 緩やかな教科担任制、学習支援員による支援、教科特別教室で授業、フィールドも学びの場、豊かな地域の教育資源 教育活動全体を通じた総合的な生徒指導 ・学習規律や生活規律などの基礎・基本の徹底 小1プロブレム回避		中ブロック【向上充実期】 学習内容の高度化、増量化 →知識と知識を関連付け、因果関係や包含関係で理解するなど、具体から抽象への転換 →自分の学びや力を自覚しながら学ぶ(メタ認知) 思春期到来(個人差あり、女子小5、男中1) →自尊感情、自己肯定感が下がり始める →不登校・いじめ・暴力行為等の前兆 中1ギャップ回避		高ブロック【貢献期】 教科の見方・考え方を駆使して論理的・創造的・批判的に思考 →自己調整しながら学ぶ *進学・進路指導 チームで生徒指導 ・自己の「生き方」を見つめる、考える、拓く 高1ドロップ回避	
	学習内容: 具体 (半具体) → 抽象 学習要素(形態): 探究的な要素の広がり (対話): グループでの探究 → 個人による探究 学習方法: 教材・学習方法の選択の広がり 家庭学習: 自律的に取り組む家庭学習の深まり 家庭で見届け → 自分で採点 → 苦手の克服 → 計画・実行・振り返り					
①話す	相手に伝わる声の大きさや速さを考えて話そう	自分の伝えたいことの強弱を変えたり、間を取って話したりしよう	資料や具体物などを見せながら話そう	相手の反応を見ながら、話す内容や方法を工夫して話そう	資料や機器などを示しながら、相手に効果的に伝わるように話そう	話す場面に合わせ、より伝わる言葉を選んで話そう
②聞く	感想が言えるように、集中して聞こう	メモをとったり、質問をしたりしながら聞こう	話し手の伝えたいことと自分の考えを比べながら聞こう	自分の考えとの共通点や相違点が明確になるよう、メモや質問を活用しながら聞こう	話の展開に注目し、自分の考えと比較しながら聞こう	話の展開を予測し、内容や表現を評価しながら聞こう
③話し合う	仲間の意見につなげて話し合おう	・仲間の意見と同じところや違うところを考えながら、話し合おう。 ・司会者になって話し合いを進めよう	互いの立場や意図を明らかにしながら、話し合いの計画に沿って話し合おう	話題や展開に沿って、仲間と自分の考えを結び付けて話し合おう	互いの立場や考えを尊重しながら、納得解や最適解を求めて話し合おう	それぞれの考えをもとに合意形成に向けて話し合おう
指導の具体	①相手を意識した声の大きさや速さを体感する場を設ける。 ②仲間の発言に対して、「どう思ったかな」と問いかける。 ③つなぐための言葉を指導する。(「〇〇さんの意見を聞いて…等)	①強弱の付け方や間の取り方のよさを実感する場面を位置付ける。 ②メモの取り方や質問の仕方の具体例を提示する。 ③共通点や相違点を意識した話し合いを繰り返し行う。	①資料等を提示しながら話すことで、聞き手に伝わる印象の違いを体感できるようにする。 ②比較するための視点を教師が意図的に提示する。 ③話し手は立場を最初に明示し話そうにする。	①聞き手の表情や様子等の指導を行う。 ②聞き手の反応に合わせて、話し方を変えることの重要性に気付くようにする。 ③共通点や相違点を意識しながら、新たな考えをもつことを指導する。	①具体物の提示の仕方を考えて実践する指導を行う。 ②観点をもって比較しながら聞くよう指導する。 ③小集団の結論を導き出すために、建設的に話し合う指導をする。	①使用する言葉の効果を考えて、話そう指導する。 ②評価とその根拠をもちながら聞くように指導する。 ③合意形成に向けた話し合いの在り方について理解し、実践の場を位置付ける。